

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)海老名駅間B-2地区オフィス棟 建築工事	階数	地上14F
建設地	海老名市めぐみ町600-3	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2022年1月28日
敷地面積	4,547 m <sup>2</sup>	作成者	鹿島建設(株)横浜支店一級建築 士事務所
建築面積	2,706 m <sup>2</sup>	確認日	2022年1月28日
延床面積	31,664 m <sup>2</sup>	確認者	鹿島建設(株)横浜支店一級建築 士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.9</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> <span style="float: right;">Q のスコア = 3.8</span></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> <span style="float: right;">Q1のスコア = 3.4</span></p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> <span style="float: right;">Q2のスコア = 3.9</span></p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <span style="float: right;">Q3のスコア = 4.2</span></p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> <span style="float: right;">LR のスコア = 3.5</span></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> <span style="float: right;">LR1のスコア = 3.3</span></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> <span style="float: right;">LR2のスコア = 3.8</span></p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> <span style="float: right;">LR3のスコア = 3.4</span></p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>海老名市に計画された事務所棟である。まちなみ調和や敷地周辺の緑化により良好な景観形成を図るとともに、自生種の積極的な採用や自然を感じる環境の計画等、生物環境の保全にも配慮している。また、広場の提供や中間領域の形成等、地域のアメニティ向上にも貢献している。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>・開口部遮音性能T-2を確保、室内の二面に吸音材を採用。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>・床積載荷重4500N/m<sup>2</sup>以上とし、荷重のゆとりを確保。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>・熱源、空調、照明・コンセント等の用途別エネルギー消費の把握が可能。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>・リサイクル材を使用し、資源の再利用に配慮。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>・荷捌き用車両スペースの確保等による交通負荷抑制。 ・緑地による自主的な雨水排水負荷低減対策。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される